

第3回ワークショップの意見まとめ

班	区域	どのような利用をしたいか	どのような利用をしたいか・まとめ	シール投票	どのような協力(関わり)ができるか	どのような協力(関わり)ができるか・まとめ	シール投票
1	A	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉の施設 ・障害者のデイサービスができる施設 ・人々がふれあい、交流できるイベントスペース ・喜多見七丁目常設会場の用地など、区域の拡大を望む。 	高齢者や障害者も便利に集まれる施設(区域の拡大を)	7	・利用者とともにボランティア活動をしたい。	利用者とともにボランティア活動をしたい。	2
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・野川沿いは住民の散歩エリアである。今後高齢化に伴い散歩やジョギングも増えると思われる。そのためのベンチの設置や、野川と小田急線の交差する場所にあるような健康遊具を設置するとよい。 ・人々がふれあい、交流できるイベントスペース ・上部空間等の全域をループ状につなぎ、散歩コース、ジョギングコースとする。 ・農園は利用が限定されるので、多目的に使える広場が良い。 	木々の中でジョギングや散歩をしたい(全域でコース化する。)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとしてイベントの企画に参加したい。 ・周辺の草むしりやごみの清掃 ・健康のために、仲間とウォーキングやランニングをする。 	スペースを使ったイベントなどの企画に参加	
			木々に囲まれた何にでも使えるスペースで、バザーや運動をしたい。	1		周辺の草むしりやごみの清掃	3
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスの壁打ちなど、雨天でも使えるスポーツ練習場 	児童や周辺住民も利用できる運動スペース			運動スペースを利用する。(学校の利用を優先する。)	1 2
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域からの利用が便利な場所である。 ・ランプの下(法面の一部)に備蓄用品の倉庫を設置する。 ・C区域の高架下を防災備蓄倉庫に活用とあるが、大震災の場合の周辺地域の共同利用を想定し、石井戸地区、大蔵地区、喜多見地区から利用しやすいD区域に集約するほうが良い。 	災害に備えて地域の拠点的な防災備蓄や避難の場とする(野川の両岸からも入りやすい。)	6	・備蓄倉庫の開閉	備蓄倉庫の開閉	1
	E	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり豊かなまちにしたい。 ・コミュニティの場を全域で考えてほしい。 ・防災についても全域で考えていくべきである。 	シニアカーなども通行できるような、人が優先する道づくり	1			
上部空間等の全域を使って、みどりとコミュニティが連携する場			1				
2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・農業公園、若しくは登録農地を利用して農を活かした街づくり ・ランプの盛土を里山として、下神明の湧水を利用した小川の復活 ・換気塔近くは人の出入りを制限する。 ・盛土部は環境の悪化が懸念されるため、丘陵原っぱのまま施設等を建設する必要はない。野川流域の原風景を再現して近隣住民、次世代住民のために地域資産として残す。 ・盛土部の丘陵原っぱは、換気塔にも近く、立ち入る人たちの健康を守るために人が立ち入らないよう規制する。 ・風向きなどの環境観測ができる「風の彫刻」(芸術系大学生との連携) ・健康遊具を設置して健康づくり 	農とのふれあい(農業公園): イモ堀り、どんぐりひろい	5	・農業公園で農を行う。	農業公園で農を行う。	
			武蔵野の原風景を楽しむ: ススキ、コオロギ、ヒバリ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ススキ、野芝などによる丘陵原っぱが荒地にならないように、維持管理に協力する。 ・環境を定期的にチェックし、発信する。 	環境状況を定期的にチェックし、発信する。	1
			環境観測施設(風の彫刻、吹流し)		<ul style="list-style-type: none"> ・排気ガスの危険を知らせる。 ・看板などで、立ち入る人に注意を呼びかける。 	立ち入る人や遊びに来る人に注意を呼びかける。	
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C/D共通: 子どもの遊び場 ・B/C/D共通: 高齢者の利用(ゲートボール等) ベンチを置いている話し合う場として利用できる場、花をつくる場として利用 ・生徒の遊び場と高齢者のサロン(室内で将棋等)があり、世代間交流が可能な場 ・災害時の資材置き場: トイレ、発電機など ・防災訓練施設: 小学校と連携して防災意識の啓発を行う。 ・災害時のがれき置き場 	子どもの遊び場と、将棋等の高齢者サロンで世代間交流を図る(人が集まるよう、明るくきれいに整備)		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを行う(ママサークル、子ども会) 	イベントを行う、企画する(ママサークル、子ども会)	3
			災害時の資材置き場(トイレ、発電機)、がれき置き場	2	<ul style="list-style-type: none"> ・パトロール、見守り ・散歩がパトロール 	見守り散歩、散歩がパトロール!	2
						<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 	防災訓練、点検
D	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まれるように、外環のランプにカバーをする。 ・緑地公園: 物をつくらず、事故や災害時の逃げ道、ヘリポートの発着等に使う。 ・地元農産物の販売 	何も作らない緑地公園(東名高速道路の事故や災害時にどのような形にも使える場所として残しておく。)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域での災害時には、東名高速を活かして備蓄物資を提供する。 	他地域での災害時には、東名高速を活かして備蓄物資を提供する。		

班	区域	どのような利用をしたいか	どのような利用をしたいか・まとめ	シール投票	どのような協力（関わり）ができるか	どのような協力（関わり）ができるか・まとめ	シール投票
3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ等の休憩所 ・手続きが簡易で誰でも自由に気軽にに入れてお茶が飲める施設 ・犬と散歩できる空間・施設 ・バスベイ ・多摩堤通りと世田谷通りの接続 ・安全確保のためにバスルート等を変更する。 ・自転車道（自転車専用レーンの設置）または歩行者・自転車道 ・道路を拡幅し、歩行者と自転車の安全を図る。 	休憩所（カフェなどの有料スペースも含む）	2	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩などにより地域の安全安心につながる。 	散歩などを行い、地域の安全安心を高める。	
			自転車専用レーン	1			
			犬のための施設				
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高木・低木もある緩衝帯としての利用。とくに、田直公園側は大気汚染・騒音軽減のため、常緑高木や低木を砧公園の東名高速道路北側のように3重4重と重ねて植える。 ・防音・防虫・防塵に効果のある木を植える。 ・人が集まるみどり ・アップダウンがあり立体的で日本庭園のように歩いて楽しい空間 ・散歩コースの中に軽い運動ができる空間 ・国分寺崖線からの湧水を活かした親水公園を設置し、小さな子どもたちが水遊びできる空間を作る。若い人たちが集まる効果がある。湧水を活かした施設は、このエリアにない。 ・国分寺崖線からの湧水を利用した犬の水飲み場 ・湧水を保全し、後世に伝達できるような空間 ・生物多様性に配慮したまちづくり ・人々が日常的に散歩したくなる空間を作れば必然的にゴミの不法投棄など起きない。高速道路側道が散歩したくなる空間になることが新しい公共工事の目指すべきこと。 	軽い運動のできる散歩コース	2	<ul style="list-style-type: none"> ・植林活動（苗木の管理） ・落ち葉掃除、親水公園の管理を手伝う。 	植林活動（苗木の管理）	1
			高木・低木を含む緑の空間	3			
			犬の水飲み場（国分寺崖線からの湧水利用）	1			
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防虫・防塵に効果があり火に強いすのきを植える。 ・健康遊具のある公園 ・トリムコース（木の遊具がたくさんあるアスレチック） 	健康遊具のある施設	2	健康遊具のある施設の利用	健康啓発	
			工事車両等悪影響が出ない整備				
			防災施設	1			
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備による歩行者空間 ・野川の氾濫対策のための調整池 	調整池	7		水害時の安全対策（調整池があることで、水防意識の啓発につながる）	6
道路整備し、歩行しやすい道路			1				
E	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩コース 回遊性を意識したルート設定 ・散歩、お茶のみ・交流 ・誰でも自由に出入りできる開放的な空間 ・観測施設（PM2.5などの観測）と地下水の環境評価を各地点に設ける。 ・喜多見常設会場周辺との一体的利用 ・施設ができるのであれば、それにあわせて地域にメリットになるようなまちづくり ・みどり・環境 地域コミュニティや防災、交流につながる。 ・行政施設の近くでゴミ箱設置 ・交番の前にゴミ箱を置くことにより行政の指導効果で環境を守る意識の向上をはかる。 ・高齢者が動きやすいまちのモデル、例えば先進性のあるデマンドバス ・バス専用道路を整備して公共交通の整備と安全性の向上を図る。 ・後期高齢者が出かけたくなる新しい公共交通 ・自転車道の整備 ・国、都、区の施策に協力をしているこの地域の住民を大切にすべきである。もともこの地域はバス停までも距離が遠く、難交通不便地域である。コミュニティバス、ワゴンバス、乗り合いタクシーなど、様々なアイデアの実験を兼ねてモデル地域とすべきである。 	回遊性を意識した散歩コースの設定	3	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいに利用する。 ・将来のまちのため、買収地に苗木を植え地域で育てる。 	きれいに利用する。	1	
		環境影響測定結果（PM2.5、地下水）が一目で分かる環境ボックスなどの設置	6				上部空間等に植える苗木の育成、管理
		地域特性（自転車社会等）を活かした先進的道路交通 交通の不便さを解消するため、自転車道の整備や、先進的な交通整備を図る					

班	区域	どのような利用をしたいか	どのような利用をしたいか・まとめ	シール投票	どのような協力（関わり）ができるか	どのような協力（関わり）ができるか・まとめ	シール投票
4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的集会施設を作り、地域住民が外環道で削がれた「地域力」の復活をさせたい。 ・福祉施設：交通の便がよい ・バス停、ロータリー：人が集まるため、交通安全のため 	地域分断からの復活のため、多目的集会施設（集会、防災）	5	<ul style="list-style-type: none"> ・防災施設、情報センター等を併せて作り、防災弱者や一人暮らしのお年寄りに情報提供をすること。 	防災情報の共有・提供、施設の維持・管理	2
			交通安全のため、バス停スペースの確保や道路拡幅	8			
			多摩堤通りの西側について、交通利便性を活かした福祉系利用	4			
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな自然環境の中にビオトープ等の水場を作り、「いこいの場」として利用したい。 ・野鳥たちが集まる樹木を植えたい。 ・バーベキュー広場：今までの打合せの場で提案したが火を使うことはできないと多分はずされたと思う。決め付けしないで安全に火を使うことを認めるべきだ。 ・ドッグラン：住民にとっては声の問題もあるので、住宅から離れた位置に配置 	緑のいこいの場（樹木やビオトープなど）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な清掃活動や見回り活動 ・定期的な清掃に参加 	樹木の管理、清掃、見回り	2
			人々の交流する広場（バーベキュー広場など）				
			ドッグラン（周辺の住民等への配慮によりこの場に集める。）				
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事情を考えると、自転車置き場より自動車置き場（自家用車）の利用を図りたい。（D区域に） ・防災備蓄倉庫の他に、レンタル倉庫を作り一般の方に貸し出す。（D区域に） ・第二校庭：子どもの体力、雨天時も利用可能、校庭が手狭 ・学童保育等、放課後にも使う。 ・ドッグラン：音の問題を解決できる。（B区域に） ・喜多見小学校校舎増築に伴い、校庭の面積が減少することが予想されている。増築の目的は今後の近隣人口増加に対応するためだが、児童が増員するにも関わらず校庭が減少する事態は、子どもたちの体力低下などの問題につながる懸念される。また、放課後の時間帯や土曜日などに校庭を使用しているキタミ80FC（喜多見小学校や近隣小学校の児童が所属する地域社会教育団体の少年サッカークラブ）の活動や、未就学児と対象としたキッズサッカー教室の活動にも支障をきたすことが予想される。このため、C区域を喜多見小学校第二校庭として使用できることを切望する。高架下であれば雨天時においても体育授業が可能となり、体育授業カリキュラムの遅延がなくなると思われる。 	学校の運動施設（第二校庭、体育館）ただし、大気など環境面や交通安全面での対策が大切		<ul style="list-style-type: none"> ・レンタル料の収益金で、防災関連グッズ等の購入や、保管物の入れ替え作業（D区域に） ・第二校庭となった場合は、キタミ80FCとして喜多見小学校指示のもと、第二校庭の管理運営に積極的に関わりたいと考えている。第二校庭内に照明を設置することや、放課後に常に使用していることで、近隣の治安確保の一環になると思われる。校庭内管理、横断歩道の設置、清掃、校庭見回り等々を行っていきたい。 	防犯対策、交通安全の見守り	1
						施設のメンテナンス	1
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・野川の水害対策（調整池広場）に利用する（水辺広場として利用） ・調整池と遊歩道（大正橋～）、水に親しむ 	（野川沿い）水害に対する安全対策や親水性確保のため、調整池と親水施設	2			
			（C寄り）防災倉庫、レンタル倉庫、自転車置き場				
E	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水、親水活用 ・交通安全対策 ・大気汚染対策 	多摩堤通りと世田谷通りの交差点の渋滞解消	3				
		喜多見小学校近くの信号や横断歩道の設置、交通規制	1				
		機能補償道路内側の遊歩道（機能補償道路沿いに遊歩道を設置）	2				
		水の活用（湧水、野川への親水性）	3				
		大気汚染対策（学校付近の環境観測）	3				

班	区域	どのような利用をしたいか	どのような利用をしたいか・まとめ	シール投票	どのような協力（関わり）ができるか	どのような協力（関わり）ができるか・まとめ	シール投票
5	A	<ul style="list-style-type: none"> 交流機能：介護保険制度が改正されて、軽度の介護状況の方の居場所としての高齢者施設（通い）の整備が望まれる。また、子育て世代への支援を促すことが地域の活性化につながると考える。高齢者や子どもなどが安全にいられる居場所の整備（併設可）が必要だと思われる。 高齢者の福祉施設 防災情報センター：避難場所に砧小学校が指定されているが、近隣住民や帰宅難民のことを考えると、機能が十分だとは思えない。上記の拠点や備蓄・情報機能も有する拠点の整備が望まれる。 東日本大震災の時にたくさんの帰宅困難者が世田谷通りを歩いていたことを考えると、多摩堤通りには防災の機能が必要である。 	<p>地域の人々のために、防災及び交流の拠点機能を設置する（特に防災）。</p> <p>高齢者の方々に特に配慮する。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> 自宅が砧小学校に隣接しているので、近隣の方々にお知らせすることができる。また、砧小学校の学校評価委員をしているので、学校にも情報を伝えることができる。 地元で働いているので、非常時の招集に応じることができる。 高齢者への在宅支援団体を運営しているので、必要に応じてノウハウなどを提供することができる。 	<p>災害時などの支援を、地域で協力し合って行う。</p>	5
		<ul style="list-style-type: none"> A区域は人が集まってくる場所なので、バス停を便利な位置に移動する。また、空地ができるので、バスが停留できるバスベイや、ポケットパークを設置する。 	<p>バスがきちんと停車できるスペース（バスベイ）を、成城方面と二子玉川方面の両側のバス停につくる。バス停を潤いあるたまり空間（歩行者の待機空間）にする。</p>	6			
B		<ul style="list-style-type: none"> 緑と水、公園緑地、環境系：地域住民としては、外環道が地下部よりいきなり目の前に出てくる風景よりは、防音・減災・環境にも寄与するだろう高木を配置してほしい。公園のプランニングはあたっては、次大夫堀公園から本緑地（B区域に新たにつくる緑地）更に砧公園まで一体的な緑化デザインが望まれる。野川をイメージした、水辺環境系のコンセプトも必要である。 外環道を見せないように工夫して植栽を行う。 緑はもちろん、水も大切にする。この場所にはみずみちや湧水があると聞いているので、それらを活用する。緑と水が両方あってこそ、自然に近い環境を形成できる。 次大夫堀公園の雰囲気にならわせ、自然豊かな場所にする。 地域住民や公園利用者が休憩などに利用できる、おしゃれで小さなカフェやショップを誘致する。 野川をランニングしたり、歩こう会のコースにしたりする。 	<p>広く区民の資源となるよう、国分寺崖線などを広域的にネットワークするような、緑と水の空間とする。</p> <p>公園利用者や地域住民が憩えるために、小さなカフェやショップなどの設置も考える。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> 現在、喜多見上部自治会で次大夫堀公園の維持管理をしている。具体的には、清掃ボランティアとして、年に数回の草刈やごみ拾いなどを行っている。個人での協力を要請するよりは、自治会として維持管理した方がいいのではないかと。 緑の維持、清掃のボランティア 	<p>緑の維持、管理に地域の人々が参加する（次大夫堀公園では定期的にやっている）。子どもたちにも、活動の輪を広げたい。</p>	4
		<ul style="list-style-type: none"> 学校施設系：子どものための施設が望まれる。前提として、周辺環境が子どもたちの健康に与える影響を建築前・建築後とも十分に検討の上、計画を検討してほしい。 この周辺には会社や事業所がないため、昼間の人口が少ない。震災等災害時の対応や防犯性向上のためにも、雇用を創出して昼間でも人が集まるようにする必要がある。雇用の場となるような、ものづくりの施設として活用したい（例：リサイクル施設で障害者の方を雇用するなど）。 	<p>学校施設</p> <p>雇用やにぎわいの創出のために、ものづくり施設をつくる。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> 現在、自治会の青少年部に属しているので、喜多見区民まつりなどのお手伝いをしている。 地元で働いているので、非常時の招集に応じることができる。 	<p>地域の商業、事業者からの意見も聞いてみる。</p>	1
D		<ul style="list-style-type: none"> 世田谷区のにぎわいをなす機能と、地域交流、区内の産業振興（農業・商業・文化芸術）を兼ね備えた「道の駅」が望まれる。 道の駅は地域防災にも貢献できる、地域貢献施設として位置づける。 	<p>雇用やにぎわい、地域防災のための「道の駅」</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民として、施設を利用することができる。道の駅を整備することで、若者や高齢者、また障害者の雇用の場につながることも考えられる。 	<p>地域の事業者や周辺の農家、また子どもの作品の展示スペース等として利用することで子ども団体等と連携して、運営に携わる。</p>	2
			<p>調整池機能</p>	4			

班	区域	どのような利用をしたいか	どのような利用をしたいか・まとめ	シール投票	どのような協力（関わり）ができるか	どのような協力（関わり）ができるか・まとめ	シール投票
	E	<ul style="list-style-type: none"> ・水道道路は世田谷通りと多摩堤通りの双方から車両が進入でき、子どもの通学や歩行者、自転車の安全を考えると今時点が危ない状況である。これに多摩堤通りから侵入できる生活道路が新たに整備されると、抜け道による渋滞や交差点ができることによる交通渋滞や事故を誘発させる状況になることが懸念される。水道道路は上下のすれ違いスペースが乏しいので円滑な通過が困難となる場合もある。新たな生活道路を整備する際はこうした現状を改善することができる計画が必要である。 ・水道道路などの交通量が増加するのであれば、地域住民の安全に配慮する必要がある。 ・外環道の緊急事態（火災・地震）に応じた避難経路や、外部からの救助体制を確保できるような、周辺まちづくりの計画が別途必要である。大規模災害を想定した計画づくりに基づく、道路整備計画が必要である。 ・ジャンクションに近いところに、騒音やPM2.5などの全般的な環境観測施設を設置する。 ・野川の桜並木など緑化が大切である。 ・昼間に人がいる事業所を残したり設置したりするなど、にぎわいのある施設 ・昼間の人口を増やすためにも、事業者が活動しやすい場所にする。例えば、この地区を商工業振興のための「喜多見特区」と位置づけてはどうか。 ・国分寺崖線、次大夫堀公園、B区域を互いにつなげるルートを想定してほしい。 	<p>安全な道路体系とする（通過交通は困る。）</p> <p>防犯に配慮する。</p> <p>にぎわいや雇用創出のため、また防災や減災、環境負荷低減のため、ソーシャルビジネスなど地域振興のための「喜多見特区」を検討する。</p> <p>多摩堤通り沿道の用途地域を、にぎわい施設が立地できるよう、変更を検討する。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の近隣に高齢者のみ世帯や、砧小学校、喜多見小学校、幼稚園などの教育施設が多いので、災害弱者に対する支援が必要である。 ・水道道路の自転車事故が多いので、事故を防ぐと共に、子どもたちが安心して通える通学路の整備は、機能補償道路の最低限の条件だと考える。 ・昼間に人がいることが防災上も大切である。 	<p>まちづくりに地域の人々が参加する。</p> <p>地域の人々の雇用の場となる。</p>	2

テーマ・キャッチコピー

1班	上部空間等を使って、崖線や野川を利用した新たな健康やコミュニティの広場をつくる！
3班	上部空間等を使って、緑と水と歴史あるコミュニティと共生した後世に残る砧村らしい先進的な場所をつくる！
5班	上部空間等を使って、水、緑豊かで交流し、安全・安心で地域活性化の拠点となる場所をつくる！